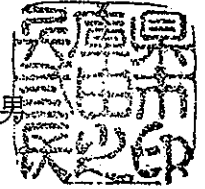


三障第 732 号  
令和元年 10 月 8 日

兵庫県立上野ヶ原特別支援学校

PTA 会長 [REDACTED] 様

三田市長 森 哲 男



令和元年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 PTA からの要望事項について (回答)

秋冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

平素は、福祉行政の推進に格別のご理解をいただき厚くお礼申しあげます。

さて、令和元年 7 月に要望がありました標記のことについて、下記のとおり回答いたします。

#### 記

#### 1. 施設の充実

当市では、障害のある人が特別支援学校を卒業されるにあたり、卒業後の進路について学校のご協力のもと、障害福祉課や相談支援センターの職員がご本人やその家族と面談する機会を持ち、各学年で実施した校外実習等の結果も踏まえ、ご本人の希望にできるだけ沿った進路先を決定する仕組みを作っています。なお、進路先については地域生活に対応することを基本としています。

生活介護の事業所については、これまでも事業所の増設等についてはご要望をいただいています。市内には昨年、新規に生活介護の事業所が開設しており、沢山の方に利用していただいています。卒業後に生活介護や就労継続支援の利用を予定されている場合は、市内及び近隣市の事業所を在学中に見学、実習等の体験をしていただき、ご本人に合った所に行けるよう、本人、ご家族をはじめ、先生、事業所、支援者などが話し合い決めて頂いているところです。ご承知いただいている通り、事業所数は限られていますので、すべて希望通りとはならないこともありますが、今後も一緒に協力しながらすすめていきます。

休日等の余暇活動については、日中一時支援等の障害福祉サービス事業所を利用いただくのも一つの方法ですが、当事者団体が行っている余暇、訓練活動、地域の関係団体などが開催するコミュニティカフェやイベント等があります。休日等の過ごし方についてもご本人とご家族でご検討いただき、必要に応じて相談、対応させていただきたいと考えています。

卒業後の進路や生活に関することについては、在学中から面談等を通じて、ご本人、ご家族に不安が残らないよう対応してまいります。ご不明な点がありましたら気軽にお尋ねください。

## 2. 学校での対応

市の職員が学校やデイサービス等の現場に足を運んでいない、とのご指摘ですが、基本の相談については、相談支援専門員や障害者の総合相談窓口である「きいてネット」の相談員が対応しており、従前に比べて直接支援にあたることは少なくなっています。

障害福祉サービスの支給決定にあたっては、相談支援専門員の作成する個別計画を定期的に確認し、必要に応じて事業所等へも訪問し、一人一人の状況にあった支援を行っておりますのでご理解いただきますよう、お願いいたします。

なお、給食の提供方法については、特別支援学校が実施されている方法のため、特別支援学校へお申し出くださいますよう、お願いいたします。

## 3. その他

現在、三田市の状況は、市民の皆さんからの行政ニーズが複雑化・多様化する一方で、市の収入は年々減少する傾向にあるため、できる限り、国や県などから補助金等を獲得するなどにより、市民の皆さんに満足いただけるサービスを提供するため予算をやり繰りし、サービスの継続と新たなサービスを行えるよう努力をしております。

このような中、本市の一般会計予算総額は、5年前と比べて17億8千万円の減額(4.5%減)としている一方で、障害福祉課が所管する予算は3億1千8百万円の増額(15.8%増)としており、放課後等デイサービスや生活介護、就労継続支援など障害福祉サービスを中心に予算計上しております。

また、少子・高齢化が進むなかで、三田に住んでいる方にはいつまでも住み続けていただく、さらには、市外の方には三田に来ていただき、住んでいただくことが、まちの活力や賑わい、さらに市の収入を増やし、いつまでも市民の皆様には質の高いサービスを提供するための一つの手段であるとの考えから、三田市の良さを発信する取り組みを進めているところです。

市の魅力などの情報発信に関する予算の多くは、地方創生を目的とした国・県からの交付金や企業や団体にご協力をいただき捻出してきたところであり、これらを活用し最大限の効果が上がるよう努力をしているところです。

最後になりましたが、三田市に住んでおられる全ての方に、三田に住んで良かった、住み続けたいと思っただけのよう、これからもまちづくりを進めてまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。